

地域で子どもたちを育もう！



卒業生や地域のかで子どもたちを育む

「我孫子市放課後子ども教室「あびっ子クラブ」(千葉県)」

あびっ子クラブは、千葉県我孫子市で2007年度に市立我孫子第一小学校に設立された最初の放課後子ども教室である。卒業生の中高校生や地域の人たちの協力と子ども主体の支え方で子どもたちが元気に育っている。その様子を取材した。

(取材・文/有馬 正史)

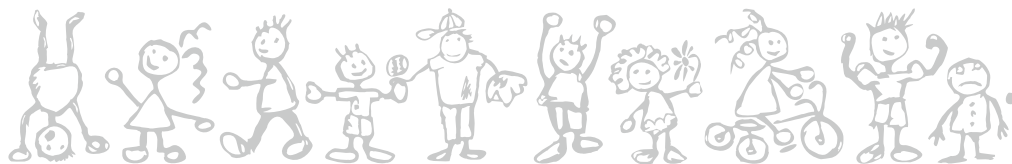


取材当日、第一小で我孫子市役所子ども部子ども支援課放課後対策担当の相良輝美さんに話を聞いた。「我孫子市には児童館がなかったため、児童館機能を持たせた常設型の放課後子ども教室としてあびっ子クラブを開設しました。09年5月24日現在、児童数605人の内、登録者数は459人で約76%、1日平均約30人が参加し、特に夏休

みは高学年が多く参加します」。さらに、「学童保育室が別にあるが、最近その子どもたちがあびっ子に流れる現象が発生しているんです」と言う。あびっ子に参加した児童は、自由に遊ぶ中で自立できるようになり、1人で家に帰ってカギの開け閉めを任せても安心できるということがその理由のようだ。あびっ子の運営スタッフには、コーディネーター、スタッフ、サポーター(地域の方の有償ボランティア)がいる。フリータイムとチャレンジタイムがあり、どちらにもサポーターが協力してくれる。フリータイムは常設で、メインルームの他、図書館、体育館、運動場を使い、子どもたちは自由に遊ぶことができる。コーディネー



カレンダー作りは子どもたちに人気



ターの古高すま子さんによると、「遊びは自由に工夫して、自分たちの感覚で学年入り交じって遊んでいますね」ということだ。チャレンジタイムは、お習字、ショートテニス、パターゴルフなどが随時組まれる。子どもたちの参加は自由で、サポーターは子どもたちに教え込むことはしない。相良さんによると、「例えば、お習字の指導者はまず自由に丸や文字を書かせて、上手に書きたいと言われればサポーターしています」と言う。

古高さんから全体の運営姿勢について聞いた。「ここではポツンとしている子が少なくなりました。そんな子どもがいたら、スタッフが声をかけるようにしています。しかし、ちょっと離れて遠目に見ることも大事ですから、あまり構いすぎないようにして、今は安全面を中心にしています」。また、「この頃気をつけていることは、先回りをしていないということです。子どもたち同士がけんかをしそうになったとき、以前は先回りして注意していました。今は、この場に先回りはふさわしくないと思うようになりました。帰るまでには子

ども同士で解決してもらうように、スタッフみんなで心掛けています」と言う。自然の流れの中で子ども自身がお互いにつかたたり、回避したりしながら、相手のことを理解し、関係を修復することもその子の生きた学びにつながる。と感じてのことのようだ。

さらに、古高さんは、低学年と高学年の体力差にも気づいていて、「特に高学年の子どもたちも夏休みになるとサポーター登録した中高年生と一緒に激しい遊びができて満足度が高まるようです」と話す。高学年の子どもたち自身も上級生と思いつき遊びたいのだ。春休みや夏休みの長期休業日になると高学年が増える理由の1つはここにあった。あびっ子クラブは、子ども目の目線ですぐに沿いながら、彼らの体験を大事に育てていく放課後子ども教室であった。



体育館では学年が入り交じって遊ぶ